



6月第2週 は「危険物安全週間」です

～ 安全へ 確かなスマッシュ 保守点検 ～

6月8日から6月14日までの1週間、「危険物安全週間」が実施されます。

石油類をはじめとする「危険物」は、事業所などにおいて幅広く利用されるとともに、皆さんの生活に深く関わっており、その安全確保の重要性は益々増大しています。このため、事業所における自主保安体制の確立を呼びかけるとともに、広く国民の危険物に対する意識の高揚と啓発を図るものです。

危険物とは？

火災発生・拡大の危険性が高く、ひとたび燃え始めると消火に困難を伴う物品のうち、消防法で定められているものをいいます

私たちの身近なものでは、ガソリン・軽油・灯油・油性塗料などがあります。これらは私たちの生活に深く関わり、なくてはならない物ですが、扱い方を間違えると大きな災害が発生する恐れがあります。

皆さんもこの危険物安全週間を機会に、安全で豊かな生活のために危険物の適正な取り扱い方法などを再認識しましょう。

● 女性消防団の「ちょっといい話」● <第22回>

今回は、「自主防災組織」についてのお話を、「東古泉地区防災会」の萩野一二さんに伺いたいと思います。

A：こんにちは、本日はよろしくお願ひします。早速ですが、組織の概要を教えてください。

萩野さん：東古泉地区防災会は昨年の7月に発足したばかりです。組織の概要は、会長、副会長3名、組長10名、そして3～5世帯ごとに班長が1名ずつです。東古泉の現在の居住者は196世帯、527名です。

A：組織の立ち上げはどうでしたか？

萩野さん：大規模な災害時に頼りになるのは自分たちだけになるので「やらにゃいかん」という気持ちで皆の足並みは揃いましたね。その後はビデオなどによる研修を重ねて、幹部の知識や技術の向上に努めました。

A：具体的な活動内容を教えてください。

萩野さん：まだ活動は手探りの状態ですが、定期的な防災訓練の実施や松前町総合防災訓練への参加、地区での避難訓練などを実施しています。この避難訓練は、班内で声を掛け合って安否を確認し、一時避難場所まで行き最終的に松前公園まで行くという内容です。とにかくできるだけ多くの住民に参加し



てもらふ事が先決のため地区の文化祭のときに実施しました。防災訓練にも、幅広い世代が集まりやすいように楽しいイベントを盛り込んでいます。「三世代もちつき」なんかもしましたよ。強制ではなく、みんなに「やらにゃいかん」と感じてもらって、防災意識を高めていきたいですね。

A：なるほど。いざという時に頼りになるご近所さんのことをお互いに知り合ういい機会にもなりますね。

萩野さん：組長、班長が各世帯のことを把握している

と組織が有効に機能するんですね。ただ、個人のプライバシー保護の問題には気をつけなければいけません。今後訓練を重ねていく中で具体的な問題が見えてくると思っています。たとえば支援の必要な方の移動方法や移動経路の整備などです。また、一時避難場所が狭いことと水害などのときに避難できる高台がないことも難点ですね。今後も機会あるごとに自主防災組織としての充実を図っていきたく思います。

A：これを機会に私たちも地域の活動に積極的に参加し、身近なネットワークをひろげていきたいと思ひます。

これからも「やらにゃいかん」を合言葉に、頑張ってください。今日はお忙しいところありがとうございました。